



Title	和歌五首
Author(s)	音代, 節雄
Citation	懷徳. 1940, 18, p. 55-55
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89053
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

庭前種竹一句過。早已亭亭雅趣多。夏雨送涼風掃拂。紗窗招月影婆娑。

契沖が住みたりし和泉なる伏屋氏舊邸を訪ねて

音代節雄

水清く陽の暖き和泉なるこの里にして君は學びし

秋の日のしみにぬくし柿の實のたわゝにみゆる伏屋の屋敷

庵のあと示すと主柿の實の下照る小徑藪かげに行く

池田川淙々として切崖の裾廻をめぐり秋の日ぬくし

切崖の藪下とよみ行く水を君聞きたりし庵の址かな

母

昭和十五年六月十八日發病

仲田應弘

食後の藥服まして横になる今の暑さは母にこたへむ

蒲團より伸して足よ冷たくてさすりくれよと云はぬ母かも

同じ月二十八日午後五時二十分逝く

リウマチの腫れも引きたる母の手を組まして従弟は有難がるも